

カトリック山形教会報

かすみ

10

2019.10.27



カトリック山形教会

〒990-0039 山形市香澄町2丁目11-15 TEL.023-622-3574 FAX.622-3590

ホームページ <http://www.catholic-yamagata.com/>



(邦題「両親の家のキリスト」 ジョージ・エヴァレット・ミレー作 1849年-1850年)

イエスも子どもだった

— 乳幼児教育の大切さ —

主任司祭 千原通明

先日、山形県私立幼稚園・認定こども園教員研修大会が庄内・最上地区で開催され、その一つの分科会が鶴岡のマリア幼稚園で行われ、わたしも参加してきました。マリア幼稚園で2年間指導を続け、当日の講話も担当されたのは東京大学大学院教育学研究科教授の遠藤利彦先生(村山市出身)でした。講話のテーマは「乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達」でした。

「非認知的な心」とは、自己肯定感などの、自分を大切にしていけるための力と、思いやりなどの、他者との関係を作り維持していく力を指します。その人間としての存在の土台を育む乳幼児期の教育が非常に大切なのですが、その鍵となるのが「アタッチメント」の概念です。この直接的な意味は「くっつくこと」ですが、単なるスキンシップを意味するものではありません。乳幼児の子どもは、親や保育者と身体的にくっつくことで安心感を得るのですが、その近親性の確保を通して自立性が発達します。こういった人間としての発達の土台となる関わり方を

「アタッチメント」と言うのです。そして、この安心感の土台に立っていれば、人生の中でどのような危機と遭遇しても、心の拠り所を保ち続け、乗り越えていくことができるのです。乳幼児期の教育が、近年あらためて重要視されている所以です。

イエスも子どもでした。当時どのような育て方がされたかは分かりませんが、きっと両親の愛に包まれた乳幼児期を過ごしたのではないのでしょうか。だからこそ、十字架の道も、その苦しみも、耐えることができたのだと思うのです。

鶴岡のマリア幼稚園も、山形聖マリアこども園と同様に、2021年度から幼保連携型の認定こども園に生まれ変わることになりました。そのための園舎新築も計画されています。これから将来を担っていく子どもたちが、自分の生を肯定し、他者のいのち、すべてのいのちを大切にしていける人となっていくことができますように、祈りながら支えていきたいと思えます。

被昇天「私の中のマリア様」

マリア 北折 博子



それは、マリアさまを受け入れざるを得なくなった出来事のはじまりでした。

わたしの心の中には、ずっとずっとマリアさまの居場所はなかったのです。ヨゼフさまのことは、子供の頃から大好きですのに…。どうしてなのか、自分の心なのに理由がわからないんです。なので、自ら進んでロザリオのお祈りは出来ない、しないわたしでした。

こんなわたしの元に、20年前に両親から、とっても悲しい手紙が届きました。泣き虫のわたしに尚一層涙の流れる日が続きました。

やや時間が経ってから、ヨゼフさまとマリアさまを『霊的両親』にと、勝手に心に刻みました。この時、哀しみの中にも、静かで穏やかな時が流れていたような記憶があります。

でも意志が弱く、信仰の浅いわたしのことですから、ヨゼフさまとマリアさまのことを想いながらも、両親に対しての葛藤がゼロになることは、ありませんでした。

聖ヨゼフさまのチャプレットは何の抵抗もなく祈ることが出来ているのに…。

でもこの哀しい出来事を境に、聖母マリアさまへの

お取次ぎを願う、ロザリオのお祈りが出来るようになりました。

頑固なわたしの心にマリアさまが入るのには、ショック療法が必要だったのでしょうか。

ご安心下さい。今のわたしの心の中に、マリアさまの居場所は、しっかりとあります。

このようなわたしが、今、ロザリオのお祈りを毎日一環唱えられるようになったのです。ビックリ!

神の計らいは限りなく痛感しています。

神に感謝

聖母被昇天 ルルドの祈り



今日、8月15日は聖母被昇天の祭日にして、聖フランシスコ・ザビエルが、九州鹿児島に上陸し、キリスト教が伝播されてから、今年の日で470周年になります。

そして、私の世代でも忘れてはならない終戦記念日でもあります。私の叔父も昭和19年にフィリピン沖で、乗っていた輸送船が米軍に攻撃され沈没して、尊い犠牲になった事を父から聞いていました。

また、日本の教会の平和旬間の最終日です。この日は特に感慨深いものがあります。

今年の聖母被昇天ミサは、幸いにして天候に恵まれルルドのマリア様から御聖堂まで聖歌行列ができました。皆さんで御ミサに与り、平和旬間を締め括るにふさわしい日でした。

ミサ後のパーティでは、恒例の持寄りによる料理が並び、アルコールも入って、大いに賑わい、皆さんでお祝いをしました。

(広報部 K.S)



マリアこまくさ保育園

『マリアこまくさ保育園』はカトリック山形教会の関係施設です。山形市の上桜田地区にあり、その歴史は古く、地区の皆様に見守られ愛されて育った家庭的な、そして子ども達はマリア様の優しさをたくさん頂きながら生活している保育園です。

園長先生から次のようなお願いがありました。「皆さん、近くに来られた時は、気軽に園にお立ち寄り下さい！」

皆さん、是非お立ち寄り下さい。そして下記の様にお話を頂きました。（広報部 柴田）



未来への「絆」

社会福祉法人 山形公和会 マリアこまくさ保育園 園長 佐藤 節子

平成19年4月、マリアこまくさ保育園が誕生してから早いもので12年の月日が経ちました。昭和30年、地域の方の要望で託児所として始まったイエズス・マリアの聖心会こまくさ保育園の年月を加えると65年の歴史があり、地域の方々との深い絆を感じます。

平成23年に旧園舎の存続可否の話になりました。その時地域の方から「園舎を残してほしい」「無くなると寂しい」との声が聞こえてきました。その時とても感激したことを思い出します。修復後、旧園舎を「まりあはうす」と命名し、子ども達がゆったりと過ごせる、絵本コーナー・製作活動ルーム・多目的ホール・プール活動の場を設けました。

現在は、子ども達だけでなく、保護者の方、地域の方々にも利用して頂いています。

去年は、「まりあはうす」で、「防災講座」「世界の人形展」を開催いたしました。70代のおばあちゃんたちやご近所の方がいらしてくださり、「神父様が園長だった頃、保育園の夏祭りに玉こんにゃくを出したっけなあ」と、懐かしそうに話してくれました。又、「まりあはうす」に足を踏み入れ、壁を見上げると十字架の道行きが掛けられています。昔と変わらない光景も残されていることもあって地域の方たちの人生のひとコマが見えた一日でした。

今年も「盆踊りの集い」として子供たちの盆踊り、かき氷を振舞いをしました。その後、中桜田、上

桜田地区の夏祭りにご家族で参加して頂けるようお誘いし、職員も皆で出かけ、地域の方たちや卒園児のご家族とお会いする楽しい時をすごすことが出来ました。又、昨年度は中桜田の公報に写真も載せていただき、保育園のことをほんの少しですが知っていただけたのではないかととても嬉しい気持ちになりました。

子ども達にとって、社会とかかわる場が少なくなった今、地域の方たちとの関わりによって子どもや親の心が育まれます。この地域で育ち、地域の人たちと関わって生活するのですから保育園だけでなく、地域の皆様の力をお借りしながら、保育して行きたいというのが私達の願いです。そして地域とのつながりを意識し大切にしていきたいと強く思っています。

現在この地域は、東北芸術工科大学が出来、区画整理によって、畑や水田が宅地化され新しい住宅が建ち並び、大きく環境が変わりました。近隣には、毎年七夕の笹竹を下さる方、湖山ケアサービス山形さん、ソーレ中桜田さんがあり、交流を重ねています。

昔から住んでいる方と新しい地域の方々に保育園をたくさん知っていただけるよう、職員皆で地域に貢献し、保育園の門を大きく開くことが私達の使命であると思っています。

イエス様に祈りながら、未来に羽ばたく子ども達と共に地域の方々との「絆」を大切に進んでいきたいと思えます。



2019年8月3日カトリック新庄教会でサマースクールが行われました。
テーマは「神様といっしょに!!」。山形教会、鶴岡教会、新庄教会からの
参加者7名、スタッフ7名と一緒に楽しい学びを深めることが出来ました。



イエスさまきょうは、ありがとうございます。
たのしかったです。すいかわりが、たのしかったです。
す。プレイムがたのしかったです。(1年 あいり)

私は、100匹のひつじから1匹きのひつじがいなくな
ってイエス様がいっしょうけんめいさがしにい
ってみつけてとってもうれしい気持ちになったと
思う。兄とよくケンカをするからしないようにしたい
です。(3年 ようき)

今日、ぼくは、サマースクールで、しゃしんたてに
かざりつけしたとき、99匹きの正しいこひつじよりは
んせいした一匹きのひつじのほうにも行くなんて
優しい人だなどと思いながら、作ったから、どんな動
物でもあいしてくれるという意味でパンダをつけま
した。(4年 よしたか)

今日はサマースクールでスイカ食べてうれし
かった。いえーい。やった。おいしい。

(5年 たかふみ)

今日のサマースクールでうれしかったことは、初

めて会う子ともいっしょにゲームをしたり、写真た
てを作ったことです。初めて会う子でも声をかけ
ていっしょに過ごせたので、とても楽しかったで
す。楽しかったことは、ペアをつかってクイズや
ゲームをした事、写真たてをつかった事、すいかわ
り、スイカの上のカップにボールを当てるゲームを
した事、スイカを食べた事、水ふうせんをつかった
事、今日の全部が楽しかったです。ありがとうございます。
(6年 みらい)

「ある人が百匹の羊をもっていて、その中の一
匹がまいごになったら…」イエスさまの愛を説く聖
句をもちいて、ゲームやクイズを行いイエスさまの
愛とやさしさを皆で学ぶ事ができました。午後か
らはすいか割りで盛り上がり、写真立て作成。初
めて参加した友達もみんなとすぐ仲良くなり楽し
く過ごせた様子でした。今年も無事サマースク
ールを終えたのも美味しい食事を作って下さった新
庄教会のみなさまやそしてお祈りとご協力をして
頂いた山形教会のみなさまに感謝いたします。有
難うございました。

(日曜学校 小笠原)



敬老の祝福と 茶話会

2019(令和1)年9月8日現在、80
歳以上の方42名にミサの中で
敬老の祝福とドンボスコカレンダー
が贈られました。ミサ後、ヨハネ館
で皆様から頂いたお菓子等で茶
話会が催されました。(広報部)



福島やさい畑と共に 飯島 千賀子

2011年3月11日の東日本大震災の時は山形も停電し暗く寒い夜を過ごしました。

被災地の高速道路、電車が止まりボランティアの方々は山形経由で被災地へはられました。教会では届いた支援物資、ガスボンベなどを被災地に届けました。

わたしも釜石、南三陸へのボランティアに参りましたが、教会の皆さんと支援できる事がないかカリタスジャパンのホームページを検索しました。そのなかに福島の復興住宅の方々に野菜を無料で配布し、また、風評被害で買って貰えない安全な野菜を首都圏の教会の協力で販売している「福

島やさい畑」を知り、教会の方々の協力で募金活動を行い今年の10月で8年になりました。

先日、カリタス原町のボランティアさんの案内で福島原発近くの6号線を通りました。

被災地の浪江町は一部帰還困難地域でパレードの向こうには草や木が生い茂る中に朽ち果てた建物があり、福島の復興には長い時間がかかると感じました。

「わたしたちはあなたたちの苦しみを忘れない」という気持ちで、これからも教会の皆さんの協力で募金活動を行って行きたいと思っています。

支援野菜配布の再開 2019年5月14日

仮設時代に「支援野菜の無料配布」(皆様からのワンコイン募金で)を約5年間行ってきましたが、仮設の閉鎖を機に終了しておりました。

この度、日本キリスト教団「本所緑星教会」の方から支援要請のご連絡を頂き、小高東町団地(福島県沿岸部の復興住宅)への支援野菜の配布を再開いたしました。ここは津波で家を失い、家族も失ってしまった方々が多く、一戸建ての復興住宅ですが、高齢者だけで一人または二人暮らしの生活です。

田畑がここにあるので故郷のこの地区に戻ってきたが、8年間、荒れ放題になっていた畑を一からやり直すには、農機具もないし、一緒に作業する家族もないし、自分も年を取ってしまったし...どうしたらいいのか...建物だけは新しく良さそうに見えるのですが、明日への希望が見えづらいのが現実です。

毎月1回ですが、孤立を防ぐためにも顔を見に、配布をしていきます。

(記事提供/山形教会担当 飯島千賀子)

NPO法人 福島やさい畑～復興プロジェクトの活動【首都圏のカトリック教会での野菜販売の様子】



ボランティアのカリタス女子高校生(神奈川)。
当法人のスタッフは一人です。助かっています。



採れたての新鮮な野菜ですので、都会の方には好評です。

復興住宅の方々が孤立しないための交流会支援



二本松市内の復興住宅②別の復興住宅で交流会をしました。
食事とゲームで楽しみました。

NPO法人



復興プロジェクト

【お問合せ】

NPO法人 福島やさい畑～復興プロジェクト
〒964-0906 福島県二本松市若宮1-370
理事長 柳沼千賀子
TEL/FAX:0243-24-7444



北山原殉教祭

北山原殉教者の生き方にならう

今年の米沢 北山原殉教祭ミサは、7月7日(日)山形地区各教会の信者90名、新潟地区から50名、新潟教会主任司祭のラウル神父様、見附教会の田中神父様、山形地区マルチネス、千原、楊の各神父様、ブライアン助祭の総勢約150名で行われました。中でも新潟から来られた30名のフィリピンの方達の参加は嬉しい限りです。ミサは11時に始まり、時折風の音、霧雨を混じえた静けさの中で、司式司祭ラウル神父様は『殉教者の死に方は生前の暮らしの生き方』を主題に、私達に普段の暮らしの中で種々の出来事に対しどう対処し生きているか?を問いかけると共に殉教者の生き方を率直、端的に話して下さいました。(ある信者さんから「説教がすごく良かったね」との言葉を聞きました。)

家に帰ってから、今回関係した会場準備について振り返って見ました。会場準備は山形県信徒会の会議で米沢教会を中心に概要が決められます。人数の少ない米沢教会では「ミサ進行は山形教会で」というのが通年ですが、会場の設置に山形から応援が欲しいと言われたのは11年目の今年が初めてです。準備のため事前に連絡があったのは集合時間だけで「何をどのように手伝えればいいのだろう」等と考えながら、私は集合時間の30分前に着きました。

目にしたのは、神父様を含め3人の男性と3・4人の女性が祭壇作りやテーブル配置など黙々と働

いている姿でした。すでに幌をかぶせ脚を折った状態で置いてある大型テントが4基、聖堂から運ばれたと思われるパイプイスとテーブルがブルーシートを掛けられて一山。張られていない簡易テントが3基、ミサ用具そして墓地を含めてきれいに刈られた芝生でした。

米沢の方達は応援を求めながらも「細かいことは言わず、やれるところまでは自分達で」の気持ちだったのでしょう。前から何日か掛けて準備されたと思います。山形からの応援3人も次々にこられ男性が揃ったことで各テントの設営、パイプイスの運搬・配置に入りましたが、米沢の人達だけでここまで準備するには大変なことだったと思います。

私たちの普段の暮らしの場でも、事柄はちがえ同じような事が多々あります。

今日のミサの中でのラウル神父様の話がどこかで結びつくのを感じました。(教会も普段の暮らしの場であり、生きている場)

ミサ終了時に「会場の後片付けは全員でお願いします」との放送があり、皆さんの協力で爽やかに殉教祭を終わることが出来ました。

残念ながらこれからの時代、信者さんは少なくなる傾向にあり、特に記念すべき行事等の実施は、地元に限らない、各教会の信者さんが参加し助け合って実施するように考えることも必要と思いました。(広報部 柴田)

『山形に支えられて』 -家族と共に主の道への歩み-

東海林 崇弘

山形教区にお迎えいただき感謝いたします。
家族と共に山形での生活を営むようになりようやく1年を迎えました。

熱心な信者の両親の元、幼児洗礼を受け毎週日曜には教会でのミサを受けることが当然の生活を送っていた私ですが、妻との宗教の違いについてはあまり気にすることなくそれぞれを受け入れておりました。実際、毎週のミサへは妻や息子も同行しておりそのことについて疑問はありませんでした。

集会祭儀での夫婦の別宗教に関するお説教、日曜学校への参加、父親からの息子の洗礼時期についてなど様々なタイミングが重なり、息子の洗礼をきっかけに神父様よりお声をいただき妻共々『洗礼』を受けることで共に主の道を歩むことが出来るようになりました。

その後、様々な祝福の声により家族として迎え入れて下さった山形教会の皆様へ心より感謝しております。

家族と共に祈りを捧げる機会が増え私自身が如何に肉に囚われて生きているのかを痛感しております。

先日の羊飼いの例え話(「見失った羊」(ルカ15.3-7))についても現代においてそもそも99匹をおいて1匹の迷える羊を探しに行くだろうか?その勇気があるだろうか?TPOを考えると九十九匹に何かあったらば?と我が子に語りかけるのに妻と思案したものでした。神父様より一人一人が個として主の前では大切であるとお説教をいただき幼少期に理解していたことと成人を迎えた現在とで隔たりがあるのだと感じたものでした。

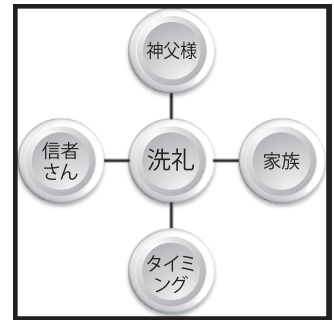
家族とのこのような時間を通じ聖書との向き合い方にも変化が生じています。同様の例え話をマタイも記しています(「迷える羊」(マタイ18.12-14))。それぞれの締め括りは以下の通りです。

マタイ：このようにこれらの小さな者が一人でも滅びることは、天におられるあなたたちの父のみ旨ではない。

ルカ：このように、悔い改める一人の罪人のためには、悔い改めの必要のない九十九人の正しい人のためよりも、天においてはもっと大きな喜びがあるであろう。

私も様々な聖人の声に耳を傾けながら主の道を歩んで参りたいと考えております。

夫婦共々まだまだ霊の道を歩むにはいたらず迷いの中におります。神父様、日曜学校の先生方、信徒の皆様へ支えていただき心より感謝致しております。皆様と共に祈り、語り合い少しでも主の道を歩めれば幸いです。今後共家族共々よろしく願います。



洗礼おめでとうございます



◆2019.6.16 横倉 秀一朗君(マタイ)



◆2019.8.11 ユウキ デララちゃん

教会前道路「都市計画道路東原村木沢線」お知らせ1

2019年10月27日(日) カトリック山形教会 評議会

1、教会前の道路の拡幅工事が決まりました。

教会前道路、正式名称「都市計画道路東原村木沢線」については以前から拡幅計画が知らされておりましたが、平成26年8月に現地測量について山形県から新潟教区に説明会の案内があり、教区より山形教会へ出席要請がありました。その後も年1回程度の説明会、勉強会等が催されておりましたが、平成31年3月に事業認可を受け事業実施する旨の説明会が令和元年7月29日にありました。

引続き8月に新道路の幅員端部を示す幅杭打設と新道路の用地となる見込みの土地、及びその隣接地等の境界確認が関係者立会で実施されました。今後は事業用地内及び関係する建物等の諸調査が予定されており、以後土地価格や物件の補償額などの個別協議を経て本工事に着手と思われれます。

2、用地売却に伴う司祭館一部削除への対応

現在道路の端より聖堂側に7m、道路に沿って24.8mが新道路に活用されることから、司祭館の食堂・浴室部が撤去されることになります。

この対応には、新潟教区「小教区における教会財産の管理に関する規程」が適用され、下記3項の手続きが必要となります。

3、条文省略

- (1) 小教区評議会に諮り、十分な審議を行い、評議員総数の過半数の賛成を得た上で、該当する教会財産の管理行為について小教区内に周知徹底する。周知の方法は、小教区総会の開催、掲示による告知等、適切な方法を選ぶことが出来る。
- (2) 周知の結果、反対意見がなかった場合は、該当する教会財産の管理行為について新潟教区に承認の申請を行う。反対意見があった場合、書面にて意見書を受付けた上で、再度小教区評議会を開催し、反対意見について審議を行い、評議員総数の3分の2以上の賛成を得て、承認の申請を行う。
上記により、9月15日の定例評議会で審議され、司祭館の新設に出席評議員6名(欠席1名)全員の賛成がありました。主な審議内容は下記の通りです。

- (1) 司祭館の増改築は?…築80年の建物に新建材での増改築は不適。
- (2) 信者会館の二階建て…信者会館は二階化できる構造になっていない。
- (3) マンション等……管理費等の支払いが将来まで続くことと下記理由。
- (4) 他の場所への建設(例えば建売住宅)…聖堂訪問者への対応が不可。
- (5) 三階建て(駐車場スペースを考慮して)…聖堂との景観が不釣り合い。

3、資金の関係

用地売却、司祭館食堂部の撤去の補償費の確定が2020年以降になることから確定した自己資金を算出することが出来ませんが、平成29年9月に新潟教区より管内各教会の老朽化に対して教会建設・改修・補強計画の調査があり、山形教会では平成26年以降の道路拡幅の説明会・勉強会等は、近年に工事実施と想定し司祭館新築計画(案)を千原神父様の指示により提出しています。内容は補償費を自己資金とし推定2,500万、新潟教区よりの借入金1,600万とし合計4,100万を現在の資金と考えています。

本計画提出時の借入金返済は、これまで開発資金より墓地会計へ返済が令和2年で終了となることから、以後司祭館新築借入金の返済に充当しようとの考えがありました。しかし教会の生活費である一般会計の収入が年毎に減少している現在、開発資金も一般会計への流用等を考慮しなければならない状況にあります。補償金が司祭館建設に十分であれば問題ありませんが、借入金が必要となればその返済は、一般会計を中心に小教区基金も含め調整した中で当てていかなければならず、現在の教会費のみでの返済は難があります。今後、教会費収入の確保、経費の縮減、司祭館建設に集中した資金確保(寄附金募集、各活動等)を信者全員で考え、借入金をいくらかでも少なくし将来の負担を出来るだけ小さくしなければなりません。

実工事費については、補償費の交渉開始(令和2年4月)までには確定しておくことが必要で、新たに財務部員の推薦を頂き、担当グループを設置し新司祭館の新築関係の実務を担っていきますが、重要事項についてはその都度評議会に諮り仕事を進めていくこととなります。皆様には御協力よろしく申し上げます。

4、司祭館一部削除への対応について皆様からの意見

以上が現在までの報告です。司祭館一部削除への対応について、新潟教区の「小教区における教会財産の管理に関する規程3(1)」に従い、9月15日の定例評議会で審議され、司祭館の新設に出席評議員6名全員(欠席1名)の賛成がありました。よって同規程に従い「本誌をもって皆様への周知」とさせていただきます。

皆様に御意見がございましたら下記により評議会(担当:財務部)にお寄せ下さい。

- (1) ご意見は書面にてお願いします。
- (2) 11月17日(日) 締切りです。

(柴田)